

## ガイダンス資料

### ・予備試験論文式試験における実務基礎科目の重要性

現行の予備試験論文式試験では、9科目の論文の合計点で合否が決まります。(一般教養科目をカウント、実務基礎科目は1科目としてカウント。)当然、全ての科目でA評価をとることが理想ですが、そううまくいくものではありません。そこで重要になってくるのが、実務基礎科目の評価になります。実務基礎科目は、成績評価上は1科目として扱われていますが、実際は民事実務基礎、刑事実務基礎の合計点で評価が決まっていますから、事実上2科目分のウェイトを占めていると考えていいでしょう。そこで、実務基礎科目でよい評価をとることが合格への近道と言っても過言ではありません。事実、予備試験最終合格者は、実務基礎科目でよい評価をとっていることが非常に多いです。

### ・実務基礎科目でよい評価をとるために

実務基礎科目は、予備試験論文試験でのみ出題される科目ですから、必然的に、受験生の学習の優先度も基本7科目に比べれば低くなるでしょう。そのため、相対的に良い評価をとりやすい、狙いどころの科目ともいえます。そして、実務基礎科目の中で配点割合が高い分野こそが、いわゆる「事実認定」の分野となります。すなわち、事実認定の設問で高得点をとることができれば、実務基礎科目の高評価、ひいては予備試験の最終合格が見えてくるということです。

とはいっても、事実認定の分野はどのような観点をもって、なにを、どのように書いていけば高得点をとれるのかわかりづらい分野でもあります。そこで、本講座は、事実認定の設問で高得点をとるための思考プロセスを紹介しつつ、実際に実務基礎科目の過去問を用いて、答案例と共にその活用法を習得していただける内容となっています。

### ・事実の評価の可視化

実務基礎科目の論文に限らず、論文でよい評価をとるためには、「事実の評価をしなさい」とのアドバイスを耳にされたことがある方も多いと思います。私も、受験生時代には事実の評価をすることは強く意識していました。しかし、適切な事実の評価や、説得力のある評価は、意識することで即座にできるようになるわけではありません。そこで、最も効率的に、高得点につながる事実の評価の仕方を習得するためには、「他人の答案を見て、そこからいいと思った事実の評価の仕方をストックしておく」ことが有効です。本講座では、実際に講師が作成した答案から、「点が入りやすい事実の評価」とはどのようなものなのかを習得していただけます。点が入る事実の評価を身につけることで、実務基礎科目だけでなく、他の基本7科目の論文の点数の向上にも役立てていただけることと思います。ぜひ、多くの事実の評価に触れ、ご自身のストックを増やして行ってください。